

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年11月11日

【四半期会計期間】 第133期第2四半期(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

【会社名】 株式会社豊田自動織機

【英訳名】 TOYOTA INDUSTRIES CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 豊田 鐵郎

【本店の所在の場所】 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地

【電話番号】 刈谷(0566)22-2511

【事務連絡者氏名】 常務執行役員経理部長 小河 俊文

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内2丁目4番1号
丸の内ビルディング29階
株式会社豊田自動織機 東京支社

【電話番号】 東京(03)5293-2500

【事務連絡者氏名】 支社長 小野 雄司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第132期 第2四半期連結 累計期間	第133期 第2四半期連結 累計期間	第132期 第2四半期連結 会計期間	第133期 第2四半期連結 会計期間	第132期
会計期間	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 7月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 7月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日
売上高 (百万円)	627,562	729,807	338,780	370,613	1,377,769
経常利益 (百万円)	4,265	38,393	6,383	19,122	31,756
四半期(当期)純利益又は 四半期(当期)純損失() (百万円)	229	23,683	343	10,719	26,273
純資産額 (百万円)			1,097,172	989,984	1,104,929
総資産額 (百万円)			2,535,820	2,359,145	2,589,246
1株当たり純資産額 (円)			3,367.75	3,027.46	3,390.02
1株当たり四半期(当期) 純利益又は 1株当たり四半期(当期) 純損失() (円)	0.74	76.02	1.10	34.41	84.33
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)					
自己資本比率 (%)			41.38	39.98	40.79
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	95,621	68,017			203,452
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	17,896	145,132			36,855
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,220	46,919			38,230
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)			252,612	190,874	317,590
従業員数 (人)			39,356	39,798	38,903

(注) 1 売上高には、消費税等を含んでおりません。

2 従業員数は、就業人員数(当社グループから外部への出向者を除き、外部から当社グループへの出向者を含む。)を記載しております。

3 第132期第2四半期連結累計期間ならびに第132期第2四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

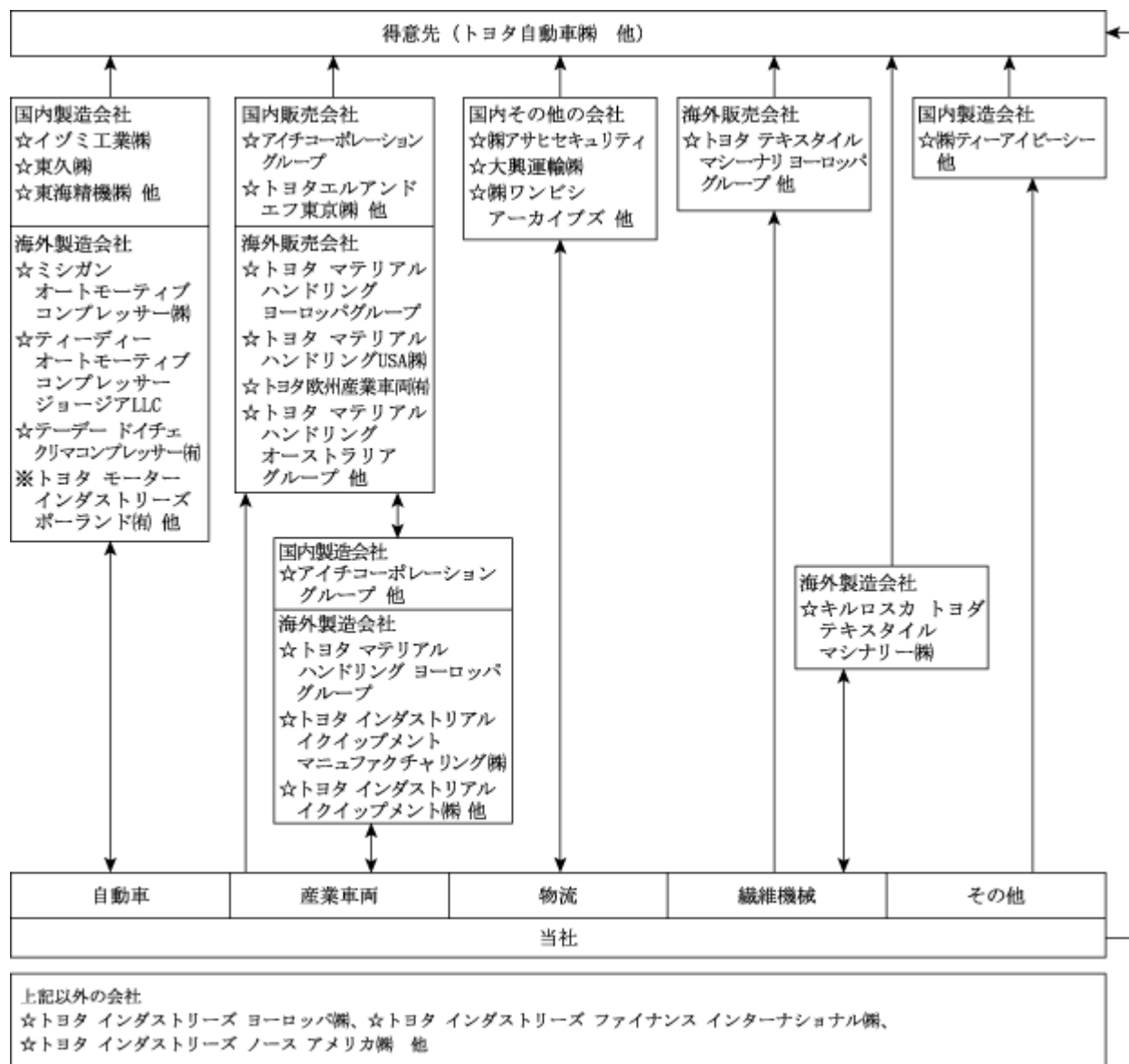
4 第132期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5 第133期第2四半期連結累計期間ならびに第133期第2四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループの事業の内容に重要な変更はありません。
また、主要な関係会社の異動は「3 関係会社の状況」に記載しております。

なお、当社グループの事業に係る位置づけおよびセグメントとの関連は、概ね次のとおりであります。



3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、物流部門に含まれていた富士物流株式会社（持分法適用関連会社）は、当社が保有する株式をすべて売却したため、関係会社に該当しなくなりました。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数(人)	39,798 [8,449]
---------	------------------

- (注) 1 従業員数は、就業人員数(当社グループから外部への出向者を除き、外部から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数は [] 内に当第2四半期連結会計期間の平均人員数を外数で記載しております。
2 臨時従業員には、期間従業員、パートタイマー、嘱託契約の従業員および派遣社員を含めております。

(2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数(人)	12,938 [1,495]
---------	------------------

- (注) 1 従業員数は、就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数は [] 内に当第2四半期会計期間の平均人員数を外数で記載しております。
2 臨時従業員には、期間従業員、パートタイマー、嘱託契約の従業員および派遣社員を含めております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
自動車	207,205	
産業車両	120,534	
繊維機械	11,151	
その他	8,775	
合計	347,666	

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引につきましては、相殺消去しております。

2 「物流」につきましては、物流サービスの提供が主要な事業であるため、記載を省略しております。

(2) 受注状況

当第2四半期連結会計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
産業車両	127,126		85,609	
繊維機械	14,558		19,893	
その他	8,763		2,511	
合計	150,449		108,014	

(注) 1 「自動車」につきましては、トヨタ自動車株式会社および株式会社デンソーから生産計画の提示を受け、生産能力を勘案し、見込生産を行っているため、記載を省略しております。

2 「物流」につきましては、物流サービスの提供が主要な事業であるため、記載を省略しております。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
自動車	207,217	
産業車両	117,060	
物流	26,609	
繊維機械	10,968	
その他	8,757	
合計	370,613	

(注) 1 セグメント間の取引につきましては、相殺消去しております。

2 主な相手先別の販売実績および総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第2四半期連結会計期間		当第2四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
トヨタ自動車(株)	149,867	44.2	158,074	42.7

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、事業等のリスクに重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間の売上高は、前年同期を319億円(9%)上回る3,706億円となりました。利益につきましては、営業利益は前年同期を134億円(198%)上回る201億円、経常利益は前年同期を128億円(200%)上回る191億円、四半期純利益は前年同期を104億円上回る107億円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

自動車

自動車部門におきましては、売上高は前年同期を141億円(7%)上回る2,072億円となり、営業利益は前年同期を34億円(55%)上回る94億円となりました。

このうち車両につきましては、ヴィッツは増加したものの、RAV4・マークXジオが減少したことにより、売上高は前年同期を10億円(1%)下回る991億円となりました。

エンジンにつきましては、KD型ディーゼルエンジンやAR型ガソリンエンジンなどが増加したことにより、売上高は前年同期を96億円(23%)上回る504億円となりました。

カーエアコン用コンプレッサーにつきましては、国内・海外向けともに増加したことにより、売上高は前年同期を46億円(11%)上回る478億円となりました。

産業車両

産業車両部門におきましては、主力のフォークリフトトラックが国内・海外向けともに増加したことにより、売上高は前年同期を121億円(12%)上回る1,170億円となり、営業利益は74億円(前年同期は10億円の営業損失)となりました。

物流

物流部門におきましては、主に自動車関連部品の運送事業が増加したことにより、売上高は前年同期を2億円(1%)上回る266億円となり、営業利益は前年同期を3億円(19%)上回る15億円となりました。

繊維機械

繊維機械部門におきましては、主にエアジェット織機が中国向けで増加したことにより、売上高は前年同期を63億円(137%)上回る109億円となり、営業利益は8億円(前年同期は5億円の営業損失)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動による245億円の資金の増加、投資活動による972億円の資金の減少、財務活動による403億円の資金の減少などの結果、1,908億円となり、第1四半期連結会計期間末に比べ1,153億円の減少となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は、主に税金等調整前四半期純利益を191億円計上したことにより245億円となり、前年同期に比べ285億円減少しました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、主に定期預金の増加による支出が885億円あったことにより972億円（前年同期は315億円の資金の増加）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、社債の償還による支出が200億円あったことや、短期借入金の減少による支出が43億円あったことなどにより403億円となり、前年同期に比べ46億円減少しました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間における当社グループの研究開発費は、66億円であります。

- (注) 1 本報告書の売上高、受注高等は消費税等抜きで表示しております。
2 セグメントの業績に記載の売上高は、外部顧客に対する売上高を表示しております。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な変更はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、第1四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,100,000,000
計	1,100,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成22年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	325,840,640	325,840,640	東京、名古屋、大阪 各証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	325,840,640	325,840,640		

(注) 提出日現在の発行数には、平成22年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

当社は、旧商法第280条ノ20および第280条ノ21の規定に基づき新株予約権を発行しております。

株主総会の特別決議日(平成17年6月22日)	
第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)	
新株予約権の数 (個)	1,155 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (単元株式数 100株)
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	115,500 2
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1株当たり3,306 3
新株予約権の行使期間	平成19年7月1日から 平成23年6月30日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 3,306 資本組入額 1,653
新株予約権の行使の条件	権利行使時に取締役、常務役員(平成20年6月20日より執行役員に名称変更)または従業員として在籍していることを要する。ただし、退任または退職後1年6ヵ月を超えない場合はこの限りではない。 その他権利行使の条件は、株主総会決議および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 1 新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とします。ただし、2に定める株式の数の調整を行った場合は、同様の調整を行います。
- 2 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生ずる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。
- $$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割(または併合)の比率}$$
- 3 3 時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込基準金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げます。
- $$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行前の株価}}$$
- 上記の算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。
- また、当社が株式分割または株式併合を行う場合には、払込金額を当該株式の分割または併合の比率に応じ比例的に調整するものとし、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げます。

当社は、会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき新株予約権を発行しております。

株主総会の特別決議日(平成18年6月22日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数 (個)	6,380 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (単元株式数 100株)
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	638,000 2
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1株当たり4,642 3
新株予約権の行使期間	平成20年8月1日から 平成24年7月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 4,642 資本組入額は会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
新株予約権の行使の条件	権利行使時に取締役、常務役員(平成20年6月20日より執行役員に名称変更)または従業員として在籍していることを要する。ただし、退任または退職後1年6ヵ月を超えない場合はこの限りではない。 その他権利行使の条件は、株主総会決議および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 1 新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とします。ただし、2に定める株式の数の調整を行った場合は、同様の調整を行います。
- 2 2 当社が株式分割(普通株式の無償割当てを含む、以下同じ)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は当該時点において未行使の新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果により生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。
- 3 3 新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割(または株式併合)の比率}}$$

新株予約権の割当日後、当社が時価を下回る価額で普通株式の発行または普通株式の自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。ただし、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行いません。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式中の「既発行株式数」からは、当社が保有する自己株式の数を除くものとし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

新株予約権の割当日後に他の種類株式の普通株主への無償割当て、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとします。

株主総会の特別決議日(平成19年6月21日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数 (個)	7,290 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (単元株式数 100株)
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	729,000 2
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1株当たり5,866 3
新株予約権の行使期間	平成21年8月1日から 平成25年7月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 5,866 資本組入額は会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
新株予約権の行使の条件	権利行使時に取締役、常務役員(平成20年6月20日より執行役員に名称変更)または従業員として在籍していることを要する。ただし、退任または退職後1年6ヵ月を超えない場合はこの限りではない。 新株予約権者は、権利を行使する条件に該当しなくなった場合、直ちに新株予約権を喪失し、当社に対して無償で返還するものとする。 その他権利行使の条件は、株主総会決議および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 1 新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とします。ただし、2に定める株式の数の調整を行った場合は、同様の調整を行います。
- 2 2 当社が株式分割(普通株式の無償割当てを含む、以下同じ)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は当該時点において未行使の新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果により生じる1円未満の端数については、これを切り捨てるものとします。
- $$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割(または併合)の比率}$$
- 3 3 新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。
- $$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割(または株式併合)の比率}}$$
- 新株予約権の割当日後、当社が時価を下回る価額で普通株式の発行または普通株式の自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。ただし、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行いません。
- $$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\frac{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$
- なお、上記算式中の「既発行株式数」からは、当社が保有する自己株式の数を除くものとし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。
- 新株予約権の割当日後に他の種類株式の普通株主への無償割当て、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとします。

株主総会の特別決議日(平成20年6月20日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数 (個)	13,510 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (単元株式数 100株)
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	1,351,000 2
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1株当たり3,410 3
新株予約権の行使期間	平成22年8月1日から 平成26年7月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 3,410 資本組入額は会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
新株予約権の行使の条件	権利行使時に取締役、執行役員または従業員として在籍していることを要する。ただし、退任または退職後1年6ヵ月を超えない場合はこの限りではない。 新株予約権者は、権利を行使する条件に該当しなくなった場合、直ちに新株予約権を喪失し、当社に対して無償で返還するものとする。 その他権利行使の条件は、株主総会決議および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 1 新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とします。ただし、2に定める株式の数の調整を行った場合は、同様の調整を行います。
- 2 2 当社が株式分割(普通株式の無償割当てを含む、以下同じ)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は当該時点において未行使の新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果により生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。
- 調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(または併合)の比率
- 3 3 新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。
- 調整後行使価額 = 調整前行使価額 × $\frac{1}{\text{株式分割(または株式併合)の比率}}$
- 新株予約権の割当日後、当社が時価を下回る価額で普通株式の発行または普通株式の自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。ただし、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行いません。
- 調整後行使価額 = $\frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\frac{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$
- なお、上記算式中の「既発行株式数」からは、当社が保有する自己株式の数を除くものとし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。
- 新株予約権の割当日後に他の種類株式の普通株主への無償割当て、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとします。

株主総会の特別決議日(平成21年6月19日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数 (個)	11,570 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (単元株式数 100株)
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	1,157,000 2
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1株当たり2,570 3
新株予約権の行使期間	平成23年8月1日から 平成27年7月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 2,570 資本組入額は会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
新株予約権の行使の条件	権利行使時に取締役、執行役員または従業員として在籍していることを要する。ただし、退任または退職後1年6ヵ月を超えない場合はこの限りではない。 新株予約権者は、権利を行使する条件に該当しなくなった場合、直ちに新株予約権を喪失し、当社に対して無償で返還するものとする。 その他権利行使の条件は、株主総会決議および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 1 新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とします。ただし、2に定める株式の数の調整を行った場合は、同様の調整を行います。
- 2 2 当社が株式分割(普通株式の無償割当てを含む、以下同じ)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は当該時点において未行使の新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果により生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。
- 調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(または併合)の比率
- 3 3 新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。
- $$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割(または株式併合)の比率}}$$
- 新株予約権の割当日後、当社が時価を下回る価額で普通株式の発行または普通株式の自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。ただし、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行いません。
- $$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\frac{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$
- なお、上記算式中の「既発行株式数」からは、当社が保有する自己株式の数を除くものとし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。
- 新株予約権の割当日後に他の種類株式の普通株主への無償割当て、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとします。

株主総会の特別決議日(平成22年6月23日)	
	第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数 (個)	12,620 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (単元株式数 100株)
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	1,262,000 2
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1株当たり2,449 3
新株予約権の行使期間	平成24年8月1日から 平成28年7月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 2,449 資本組入額は会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
新株予約権の行使の条件	権利行使時に取締役、執行役員または従業員として在籍していることを要する。ただし、退任または退職後1年6ヵ月を超えない場合はこの限りではない。 新株予約権者は、権利を行使する条件に該当しなくなった場合、直ちに新株予約権を喪失し、当社に対して無償で返還するものとする。 その他権利行使の条件は、株主総会決議および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 1 1 新株予約権1個当たりの目的である株式の数は100株とします。ただし、2に定める株式の数の調整を行った場合は、同様の調整を行います。

2 2 当社が株式分割(普通株式の無償割当てを含む、以下同じ)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとします。ただし、かかる調整は当該時点において未行使の新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果により生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとします。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(または併合)の比率

3 3 新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

調整後行使価額 = 調整前行使価額 × $\frac{1}{\text{株式分割(または株式併合)の比率}}$

新株予約権の割当日後、当社が時価を下回る価額で普通株式の発行または普通株式の自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。ただし、新株予約権の行使の場合は、行使価額の調整は行いません。

調整後行使価額 = $\frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\frac{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}} \right)}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$

なお、上記算式中の「既発行株式数」からは、当社が保有する自己株式の数を除くものとし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

新株予約権の割当日後に他の種類株式の普通株主への無償割当て、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、行使価額は適切に調整されるものとします。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年7月1日～ 平成22年9月30日		325,840		80,462		101,766

(6) 【大株主の状況】

平成22年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1番地	76,600	23.51
株式会社デンソー	愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地	29,647	9.10
東和不動産株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅4丁目7番1号	15,697	4.82
サードアヴェニュー ヴァリューフアンド (常任代理人 株式会社みずほ コーポレート銀行)	622 Third Avenue, New York, NY 10017 U.S.A. (東京都千代田区丸の内1丁目3番3号)	15,419	4.73
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	9,416	2.89
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	9,096	2.79
豊田通商株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅4丁目9番8号	8,289	2.54
日本生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区今橋3丁目5番12号	6,735	2.07
アイシン精機株式会社	愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地	6,578	2.02
全国共済農業協同組合連合会	東京都千代田区平河町2丁目7番9号	6,097	1.87
計		183,578	56.34

(注) 1 当社は、自己株式(14,271千株)を所有しておりますが、上記の大株主より除いております。

2 上記所有株式数のうち信託業務に係る株式は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,416千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,096千株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,271,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 311,265,000	3,112,650	
単元未満株式	普通株式 304,240		
発行済株式総数	325,840,640		
総株主の議決権		3,112,640	

(注) 1 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式が31株含まれております。

2 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権10個)あります。
なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の中に含まれております。

【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社豊田自動織機	愛知県刈谷市豊田町 2丁目1番地	14,271,400		14,271,400	4.38
計		14,271,400		14,271,400	4.38

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	2,758	2,711	2,498	2,474	2,414	2,297
最低(円)	2,546	2,265	2,247	2,186	2,100	2,106

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）および前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）および当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）および前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表ならびに当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）および当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	210,224	287,965
受取手形及び売掛金	172,607	163,708
有価証券	151,411	71,391
商品及び製品	38,558	37,358
仕掛品	26,653	25,672
原材料及び貯蔵品	27,494	25,318
繰延税金資産	17,216	17,182
その他	60,299	47,307
貸倒引当金	3,007	3,103
流動資産合計	701,457	672,801
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1 163,788	1 169,991
機械装置及び運搬具（純額）	1 190,471	1 212,079
工具、器具及び備品（純額）	1 21,789	1 21,840
土地	119,306	119,517
建設仮勘定	11,316	8,547
有形固定資産合計	506,672	531,977
無形固定資産		
のれん	68,600	72,745
ソフトウェア	9,789	9,976
無形固定資産合計	78,389	82,722
投資その他の資産		
投資有価証券	958,031	1,162,685
長期貸付金	5,275	5,554
繰延税金資産	9,810	10,429
その他	99,709	123,278
貸倒引当金	201	202
投資その他の資産合計	1,072,626	1,301,744
固定資産合計	1,657,688	1,916,444
資産合計	2,359,145	2,589,246

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	147,688	141,787
短期借入金	47,020	46,241
コマーシャル・ペーパー	7,452	9,575
1年内償還予定の社債	30,373	50,446
未払金	10,535	13,149
未払法人税等	15,470	15,014
繰延税金負債	307	316
役員賞与引当金	213	310
その他	177,422	158,100
流動負債合計	436,483	434,941
固定負債		
社債	236,520	231,401
長期借入金	284,026	299,208
リース債務	82,437	108,014
繰延税金負債	269,692	351,009
退職給付引当金	2 45,432	2 45,234
その他	14,568	14,507
固定負債合計	932,677	1,049,375
負債合計	1,369,160	1,484,316
純資産の部		
株主資本		
資本金	80,462	80,462
資本剰余金	106,179	106,179
利益剰余金	396,100	378,648
自己株式	50,692	50,689
株主資本合計	532,050	514,601
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	422,473	544,068
繰延ヘッジ損益	202	9
為替換算調整勘定	11,463	2,430
評価・換算差額等合計	411,212	541,628
新株予約権	2,014	1,720
少数株主持分	44,707	46,978
純資産合計	989,984	1,104,929
負債純資産合計	2,359,145	2,589,246

(2)【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	627,562	729,807
売上原価	551,453	615,321
売上総利益	76,108	114,486
販売費及び一般管理費	¹ 78,911	78,280
営業利益又は営業損失()	2,802	36,205
営業外収益		
受取利息	5,564	4,639
受取配当金	9,449	7,870
その他	4,482	3,343
営業外収益合計	19,496	15,854
営業外費用		
支払利息	9,243	8,105
その他	3,185	5,561
営業外費用合計	12,428	13,666
経常利益	4,265	38,393
特別損失		
産業車両の事業構造再編に伴う損失	² 3,013	-
特別損失合計	3,013	-
税金等調整前四半期純利益	1,251	38,393
法人税、住民税及び事業税	1,520	14,044
法人税等調整額	1,302	193
法人税等合計	217	13,850
少数株主損益調整前四半期純利益	-	24,542
少数株主利益	804	858
四半期純利益	229	23,683

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	338,780	370,613
売上原価	292,655	311,365
売上総利益	46,125	59,248
販売費及び一般管理費	¹ 39,340	39,055
営業利益	6,784	20,192
営業外収益		
受取利息	2,781	2,240
受取配当金	364	391
その他	2,151	2,145
営業外収益合計	5,297	4,777
営業外費用		
支払利息	4,590	3,887
その他	1,107	1,960
営業外費用合計	5,697	5,847
経常利益	6,383	19,122
特別損失		
産業車両の事業構造再編に伴う損失	² 3,013	-
特別損失合計	3,013	-
税金等調整前四半期純利益	3,370	19,122
法人税、住民税及び事業税	834	4,412
法人税等調整額	1,291	3,019
法人税等合計	2,125	7,432
少数株主損益調整前四半期純利益	-	11,690
少数株主利益	901	970
四半期純利益	343	10,719

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,251	38,393
減価償却費	53,703	43,927
貸倒引当金の増減額（は減少）	81	16
受取利息及び受取配当金	15,013	12,510
支払利息	9,243	8,105
持分法による投資損益（は益）	832	329
売上債権の増減額（は増加）	5,048	11,897
たな卸資産の増減額（は増加）	13,980	7,407
仕入債務の増減額（は減少）	19,562	7,756
その他	2,451	11,098
小計	79,379	77,777
利息及び配当金の受取額	15,032	12,592
利息の支払額	9,313	8,135
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	10,523	14,216
営業活動によるキャッシュ・フロー	95,621	68,017
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	30,874	22,313
有形固定資産の売却による収入	9,859	3,606
投資有価証券の取得による支出	8	235
投資有価証券の売却による収入	52	2,928
貸付けによる支出	12	11
貸付金の回収による収入	1,691	288
定期預金の純増減額（は増加）	-	126,105
その他	1,396	3,289
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,896	145,132
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	23,750	10,761
長期借入れによる収入	14,174	-
長期借入金の返済による支出	2,130	304
社債の発行による収入	50,000	4,973
社債の償還による支出	26,977	20,000
自己株式の取得による支出	11	4
配当金の支払額	3,115	6,231
少数株主への配当金の支払額	430	333
その他	20,978	14,257
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,220	46,919
現金及び現金同等物に係る換算差額	96	2,681
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	64,601	126,715
現金及び現金同等物の期首残高	188,011	317,590
現金及び現金同等物の四半期末残高	252,612	190,874

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	
1	<p>連結の範囲に関する事項の変更</p> <p>(1) 連結の範囲の変更</p> <p>第1四半期連結会計期間より、海外子会社のトヨタ マテリアル ハンドリング ノース アメリカ㈱および豊田紡織機械商貿(上海)有は、新たに子会社となったため、連結の範囲に含めております。また、国内子会社のアイチコーポレーショングループ1社および海外子会社のトヨタ マテリアル ハンドリング ヨーロッパグループ2社は合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。</p> <p>当第2四半期連結会計期間において、海外子会社の万弼士文档信息管理(昆山)有は、新たに子会社となったため、連結の範囲に含めております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 159社</p>
2	<p>持分法の適用に関する事項の変更</p> <p>(1) 持分法適用関連会社の変更</p> <p>当第2四半期連結会計期間において、富士物流㈱は、当社が保有する株式をすべて売却したため、持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>(2) 変更後の持分法適用関連会社の数 12社</p>
3	<p>会計処理基準に関する事項の変更</p> <p>「資産除去債務に関する会計基準」等の適用</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これにより、営業利益は46百万円減少しており、また、経常利益および税金等調整前四半期純利益は、それぞれ1,045百万円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	
(四半期連結損益計算書関係)	<p>第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。</p>
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	<p>前第2四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「定期預金の純増減額(は増加)」は、重要性が増したため、当第2四半期連結累計期間より区分掲記しております。なお、前第2四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「定期預金の純増減額(は増加)」は7百万円であります。</p>

当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	
(四半期連結損益計算書関係)	<p>第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。</p>

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間
(自平成22年4月1日
至平成22年9月30日)

1 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として、定率法を採用している資産については、当連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2 法人税等ならびに繰延税金資産および繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
<p>1 有形固定資産の減価償却累計額 864,265百万円</p> <p>減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。</p> <p>2 このうち2,923百万円は役員(執行役員を含む)の退任慰労引当金であります。</p>	<p>1 有形固定資産の減価償却累計額 852,805百万円</p> <p>減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。</p> <p>2 このうち3,741百万円は役員(執行役員を含む)の退任慰労引当金であります。</p>

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び手当 32,384 百万円</p> <p>研究開発費 9,419</p> <p>2 産業車両事業の生産拠点の一つであるカナダの工場の閉鎖に伴う費用を「産業車両の事業構造再編に伴う損失」として計上しております。</p>	<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び手当 31,020 百万円</p> <p>研究開発費 10,215</p>

前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び手当 15,659 百万円</p> <p>研究開発費 4,647</p> <p>2 産業車両事業の生産拠点の一つであるカナダの工場の閉鎖に伴う費用を「産業車両の事業構造再編に伴う損失」として計上しております。</p>	<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。</p> <p>給料及び手当 15,123 百万円</p> <p>研究開発費 5,210</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p>現金及び預金勘定 242,531 百万円</p> <p>預入期間が3ヵ月を超える定期預金 14</p> <p>取得日から3ヵ月以内に満期日または償還日の到来する短期投資(有価証券) 51,368</p> <p>集配金・売上金管理サービス用の現金及び預金 41,272</p> <p>現金及び現金同等物 252,612</p>	<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p>現金及び預金勘定 210,224 百万円</p> <p>預入期間が3ヵ月を超える定期預金 126,482</p> <p>取得日から3ヵ月以内に満期日または償還日の到来する短期投資(有価証券) 151,411</p> <p>集配金・売上金管理サービス用の現金及び預金 44,278</p> <p>現金及び現金同等物 190,874</p>

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)および当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1 発行済株式の種類および総数

普通株式 325,840,640株

2 自己株式の種類および株式数

普通株式 14,271,431株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	当第2四半期 連結会計期間末残高 (百万円)
連結財務諸表提出会社	ストックオプションとしての新株予約権	2,014

(注) 平成21年および平成22年ストックオプションについては、権利行使期間の初日が到来しておりません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月23日 定時株主総会	普通株式	6,231	20	平成22年3月31日	平成22年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	7,789	25	平成22年9月30日	平成22年11月26日	利益剰余金

5 株主資本の著しい変動に関する事項

当第2四半期連結累計期間において、6,231百万円の剰余金の配当を行っております。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	自動車 (百万円)	産業車両 (百万円)	物流 (百万円)	繊維機械 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	193,139	104,902	26,419	4,636	9,682	338,780		338,780
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,230	229	1,396	12	2,605	7,474	7,474	
計	196,370	105,132	27,815	4,649	12,287	346,255	7,474	338,780
営業利益又は営業損失()	6,083	1,090	1,266	515	949	6,694	90	6,784

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	自動車 (百万円)	産業車両 (百万円)	物流 (百万円)	繊維機械 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	340,125	208,433	53,141	6,999	18,861	627,562		627,562
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,405	428	2,584	30	5,524	13,972	13,972	
計	345,531	208,862	55,725	7,030	24,385	641,535	13,972	627,562
営業利益又は営業損失()	1,141	6,249	1,951	1,419	1,525	3,050	247	2,802

(注) 1 事業区分は、製品の種類・性質により区分しております。

2 各事業区分の主要製品・サービス

自動車 車両、エンジン、カーエアコン用コンプレッサー、鋳造品、電子機器

産業車両 フォークリフト、ウェアハウス用機器、自動倉庫、高所作業車

物流 陸上運送サービス、集配金・売上金管理サービス、情報保管管理・集配サービス

繊維機械 織機、紡機

その他 半導体パッケージ基板

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	248,393	32,397	47,842	10,147	338,780		338,780
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	20,253	238	807	1,197	22,495	22,495	
計	268,647	32,635	48,649	11,344	361,276	22,495	338,780
営業利益又は営業損失()	8,303	549	1,258	707	7,202	417	6,784

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	444,039	64,446	99,202	19,874	627,562		627,562
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	35,027	576	1,658	2,101	39,363	39,363	
計	479,067	65,022	100,860	21,975	666,925	39,363	627,562
営業利益又は営業損失()	605	1,891	3,482	1,295	3,472	670	2,802

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度により区分しております。

- 2 本邦以外の区分に属する主な国または地域
 北米 アメリカ、カナダ
 欧州 スウェーデン、ドイツ、フランス
 その他 オーストラリア、中国

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	北米	欧州	その他	計
海外売上高(百万円)	32,668	53,537	23,597	109,803
連結売上高(百万円)				338,780
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.6	15.8	7.0	32.4

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	北米	欧州	その他	計
海外売上高(百万円)	64,792	109,990	42,031	216,814
連結売上高(百万円)				627,562
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.3	17.5	6.7	34.5

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度により区分しております。
 2 各区分に属する主な国または地域
 北米..... アメリカ、カナダ
 欧州..... ドイツ、フランス、イギリス
 その他..... オーストラリア、中国
 3 海外売上高は、四半期連結財務諸表提出会社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの報告セグメントは、製品およびサービスの類似性を勘案し、「自動車」、「産業車両」、「物流」および「繊維機械」としております。なお、経済的特徴が概ね類似している事業セグメント「車両」、「エンジン」および「カーエアコン用コンプレッサー」等を集約し、報告セグメント「自動車」としております。各報告セグメントに属する主要な製品およびサービスは次のとおりであります。

報告セグメント名称	報告セグメントに属する主要な製品およびサービス
自動車	車両、エンジン、カーエアコン用コンプレッサー、鋳造品、電子機器
産業車両	フォークリフト、ウェアハウス用機器、自動倉庫、高所作業車
物流	陸上運送サービス、集配金・売上金管理サービス、情報保管管理・集配サービス
繊維機械	織機、紡機

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	自動車	産業車両	物流	繊維機械	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
売上高								
外部顧客への売上高	408,936	230,856	53,820	18,512	17,682	729,807		729,807
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,310	412	3,409	2	4,706	18,840	18,840	
計	419,247	231,268	57,230	18,514	22,388	748,648	18,840	729,807
セグメント利益	18,680	11,782	2,725	1,086	1,730	36,005	200	36,205

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主要な製品は、半導体パッケージ基板であります。

2 セグメント利益の調整額200百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	自動車	産業車両	物流	繊維機械	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
売上高								
外部顧客への売上高	207,217	117,060	26,609	10,968	8,757	370,613		370,613
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,557	196	2,009	2	2,729	10,494	10,494	
計	212,774	117,256	28,619	10,971	11,486	381,108	10,494	370,613
セグメント利益	9,452	7,432	1,501	866	871	20,124	68	20,192

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主要な製品は、半導体パッケージ基板であります。

2 セグメント利益の調整額68百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(ストックオプション等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

1 スtockオプションに係る当第2四半期連結会計期間における費用計上額及び科目名

販売費及び一般管理費 180百万円

2 当第2四半期連結会計期間に付与したストックオプションの内容

	平成22年ストックオプション
付与対象者の区分および人数	当社取締役16名 当社執行役員および従業員146名
株式の種類別のストックオプション付与数	普通株式 1,262,000株
付与日	平成22年8月2日
権利確定条件	権利行使時に取締役、執行役員または従業員として在籍していることを要する。ただし、退任または退職後1年6ヵ月を超えない場合はこの限りではない。 新株予約権者は、権利を行使する条件に該当しなくなった場合、直ちに新株予約権を喪失し、当社に対して無償で返還するものとする。 その他権利行使の条件は、株主総会決議および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
対象勤務期間	平成22年8月2日～平成24年7月31日
権利行使期間	平成24年8月1日～平成28年7月31日
権利行使価格(円)	2,449
付与日における公正な評価単価(円)	686

株式の種類別のストックオプション付与数は、株式数に換算して記載しております。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)		前連結会計年度末 (平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	3,027円46銭	1株当たり純資産額	3,390円02銭

2 1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	
1株当たり四半期純利益	74銭	1株当たり四半期純利益	76円02銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
1 1株当たり四半期純利益		
四半期純利益(百万円)	229	23,683
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	229	23,683
普通株式の期中平均株式数(千株)	311,574	311,569
2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)		
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要		

前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純利益 1円10銭 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。	1株当たり四半期純利益 34円41銭 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
1 1株当たり四半期純利益		
四半期純利益(百万円)	343	10,719
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	343	10,719
普通株式の期中平均株式数(千株)	311,573	311,569
2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)		
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要		

(重要な後発事象)

該当する事項はありません。

2 【その他】

中間配当に関し、次のとおり取締役会において決議されました。

決議年月日	平成22年10月29日
中間配当金の総額	7,789百万円
1株当たりの金額	25円
効力発生日および支払開始日	平成22年11月26日

(注) 平成22年9月30日最終の株主名簿に記載または記録された株主に対して支払を行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月12日

株式会社豊田自動織機
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 堀江正樹
業務執行社員

指定社員 公認会計士 川原光爵
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社豊田自動織機の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社豊田自動織機及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月11日

株式会社豊田自動織機
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 笹山 勝 則
業務執行社員

指定社員 公認会計士 川原 光 爵
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社豊田自動織機の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社豊田自動織機及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。